

総合患者支援センターニュース

〒700-8558
岡山市鹿田町2丁目5番1号
岡山大学医学部・歯学部附属病院
総合患者支援センター
☎ 086-223-7151(代表)
☎ 086-235-7744(直通)

ISCPS

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



新副センター長 ご挨拶

総合患者支援センター副センター長 岡田 宏基



9月1日付で、下村宏之前副センター長の後任として、香川大学より転任しました岡田宏基です。よろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介させていただきますと、昭和56年に本学を卒業した後、岡山市内の病院での2年間の内科研修を経て、九州大学心療内科に入局しました。病棟と関連病院にて計3年間のトレーニングを受けた後、一般内科での活動の場を求めて、昭和61年に香川医科大学第一内科に入局しました。その後高松市内の一般病院から国立精神・神経センター武蔵病院精神科を経て、平成4年1月から香川医科大学総合診療部に勤務。平成13年3月からは医療情報部に移り、病院医療情報システムの管理・運営や、遠隔医療、さらにITを利用した地域医療ネットワーク作りに携わってきました。

この度、公文センター長のご推薦をいただき本センターに参りましたが、オープン後1年半足らずの間に、既に守備範囲が非常に拡大していることにまず感嘆しました。これも、センターのスタッフ、ならびにボランティアの方々の献身的なご尽力の賜であろうと思います。私は、これまで自分がやってきたことが、このセンターで統合できると考え、異動を決意しました。当面は、これまでのセンターの活動を十分に把握した上で、主に相談業務を担当しつつ、情報ネットワークを用いてその広報の強化に努めたいと思います。その後、これまでの経験を活かして、リラクゼーション教室や、遠隔医療など、何か自分のカラーが出せるような活動を展開して行きたいと考えています。何しろ卒業23年後の初めての母校への勤務となりますので、不慣れでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞ末永くお付き合いいただきますようお願いいたします。



病院ボランティア 活動案内

あなたの思いをボランティア
というかたちに・・・

患者様の不安や心配を同じ目の高さで少しでもやわらげたい、という思いが病院ボランティアの原点です。当院では平成8年より病院ボランティアを導入していますが、今ではなくてはならない病院の顔となっています。「ボランティアの優しい笑顔や声掛けがうれしい」と、患者様には大変好評です。また、ボランティアの方々には、「患者様との交流が何よりものエネルギー」と熱心に活動していただいています。

現在67名がボランティア登録をしています。主な活動は、外来での案内、患者図書室の運営、小児科病棟・院内学級での活動、病棟での配膳のお手伝いなどです。患者様からボランティア活動への要望も寄せられるようになり、これから益々活動が広がりそうです。この活動の広がりが、“あたたかい病院づくり”の原動力になると考えています。

病院ボランティアを募集しています！

募集機関

平成16年9月1日(水)～10月29日(金)

登録の条件

- ・ 16歳以上で、心身ともに健康である人
- ・ 病院ボランティアの主旨に賛同し、協力的に活動してくださる人
- ・ 患者様のプライバシーが守れる人
- ・ 活動の時間等、約束が守れる人

*活動は無報酬です。ボランティア活動保険料、交通費、食費等は各自のご負担となります。

詳しくは・・・

総合患者支援センター 086(235)7744
までご連絡ください。



患者図書室

患者様への医療情報の提供と安らぎの場を目指して、月・水・金曜日の午後1時から3時までオープンしています。

インターネットでの医療情報検索もできます。図書の貸し出しや登録など、運営全般を担当しています。ぜひ一度お立ち寄りください。



外来のご案内



初診受付のご説明、病棟へのご案内などを行っています。お困りのことがありましたら、お気軽に声をかけてくださいね。



絵本の読み聞かせ

小児科病棟のプレイルームで、入院中のお子さんに絵本の読み聞かせをしています。子どもさんに、治療の合間のほっとしたやすらぎの時間を提供できればと頑張っています！



病院ボランティアとしての魅力とやりがい

中谷 昌子

学生時代からボランティア活動はしていましたが、定期的継続的に開始したのは、募集の小さな記事でした。家族の協力もあり家事に支障のない範囲での活動です。私は一週間のうたのように、月曜日は図書室、火曜日は総合案内、第一木曜日はサロンというようにスケジュールをたてました。フル回転の毎日ですが、かれこれ9年になります。病院内活動で何ができるのか、何を希望されているのかわかり、ボランティア同士で学び合いも含め、良い仲間との出会いが継続的に活動させていただいている源です。活動後、メンバーとお茶したりランチに行くなどもしています。メンバー構成は男女とも若い世代から熟年世代までさまざまですが、もっとたくさんのボランティアが活動してほしいと思います。

ボランティア活動は、自分の可能性を広げるチャンス、積極的な生き方の選択としてご一緒に活動いたしましょう。



バンビ代表 内藤 由子

私たちは、4年前10人で始めた小児科ボランティアです。小児科病棟のプレイルームでお子様と一緒に遊んでおります。岡山市レクリエーション協会の会員が発案して、長期入院のお子様、家族と医療関係者以外の人との関わりを持ってもらうのも良いかと思って、月1回、月曜日の午後1時間あまりの間、プレイルームでそこに来られるお子様の相手をしております。玩具や読み聞かせの本やゲームや折り紙などを持参し、お子様の好みや興味に合わせて一緒に遊びます。

普段は2～3人がかわるがわる担当しております。また年に何度かはイベントをしています。その時はできるだけ全員で人形劇とか紙芝居など普段の少人数では出来ないことを行っています。

これからは、保護者の方の外出の間のお子様の見守りなどやりたいことはいっぱいあります。ただ全員自分の仕事もあり、もっと大勢の人と一緒に出来たらより良い活動ができるのに、と仲間を待っております。



ボランティアが私にくれたこと

医学部保健学科 看護学専攻2回生 兵田 直子

大学に入って何かやってみたいなと思い、始めたボランティア。私はこれまで、病院内外でいろいろなボランティアに参加してきました。活動を通して、ボランティアで大切なことは、私は患者さんの困っていることを察し行動すること、つまり相手の側に立つことだと感じています。それと共に自分も活動が楽しいと思えることも必要です。ボランティア活動は、私に精神的に多くのことを与えてくれます。経験が増えるごとに、精神の成長や人を思いやる感性を育み、自分の内面をより大きく強いものにしてきているように思うのです。このように活動を通して得るものは人によって様々ですが、ボランティアは、私達に大切な何かをもたらしてくれます。私が始めた時に先輩方が立ち上げた学生ボランティア『ぼぼ』の活動は、今では病院ボランティアも含め、多方面で様々な活動を展開しています。しかし、悲しいことに人数不足です。みなさんも私達と一緒に楽しいボランティア始めませんか。

総合患者支援センターの マスコットです!



医学科の玉田 有氏に考案していただきました。

虹色のハートが温かくほんわかとしたイメージです。

パンフレットやポスターなど、度々登場すると思いますが、宜しくお願いします。



次回の総合患者支援センターニュース一月号から、岡田副センター長の連載を始めます。内容は、ストレスや不安など様々なこころの問題に関して。岡田副センター長の専門分野である「こころのケア」について取り上げていく予定です。お楽しみに。



【編集後記】
創刊号に続き、無事十月号を発行することができました。スタッフも一新し、さらに総合患者支援センターの活動を広げていきたいと思っています。
朝夕が冷え込むようになり、一日一日と日暮れが早くなってきました。秋も深まってきましたね。皆さん体調には十分ご注意ください。
(T)



～支援の窓から～

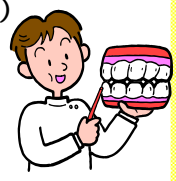
Vol.2

「摂食・嚥下相談をご利用ください！」

石田 瞭 (歯科医師)

手術後や病気の回復過程は食欲がなく、マヒが生じることもあり、これまでと同じような食生活が困難になることもしばしばです。「口から食べたい」という意欲は、早期回復にも大変重要ですが、なかなかそうもいかず、苦境におられる方もいらっしゃると思います。

『摂食・嚥下相談』は、病状は落ち着いてきたけれども、これから栄養をどのように考えていこうか、特に口から食べられるにはどうしたら良いの?というお悩みに迅速対応し、支援させていただく場です。担当は、普段『食べ方・飲み込みのリハビリテーション』を専門に行っている歯科医師で、皆様からのご相談をお待ちしております。入院の方のみならず、もちろん外来の方、院外の方からのご相談もお受けしております。(ご相談は無料で、予約制となっております。)



ご相談時間・・・毎週月曜日 午後2時～4時

お問い合わせ・ご予約窓口・・・086-235-7744

手=ムによるオストメイト支援活動

看護師 奥野 信枝

平成16年8月22日、津島キャンパス内岡山大学50周年記念会館において、第18回中四国ストーマリハビリテーション研究会が行われました。

この研究会で、「オストメイト支援活動報告 総合患者支援センターでの取り組みの中から見えてきたこと」を発表致しました。病院内だけでなく、医学部・歯学部・保健学科・行政・地域医療機関・一般、専門家のボランティアに参加していただいて、専門的なチームによる活動を行っている現状を報告致しました。